

国連生物多様性の 10 年日本委員会（UNDB-J）

令和 2 年度 事業実施計画（案）

<方 針>

令和元年度は、ロードマップに基づき、UNDB-J 及び構成団体が生物多様性の主流化に向けた取組を推進した。令和 2 年度は引き続き取組を推進するとともに、10 年間の取組・成果と今後の進め方について、整理・検討を行う。

<重点事業>

○ 未来へつなぐ「国連生物多様性の 10 年」せいかりレーの実施

2020 年 1 月より、1 年間を通した「未来へつなぐ『国連生物多様性の 10 年』せいかりレー」を実施する。

○ ロードマップに基づいた取組推進

ロードマップに位置づけられている取組について、前年度の取組状況のフォローアップを行うとともに、必要な改訂を行う。その上で、ロードマップに基づいた取組を推進する。特に UNDB-J としての取組として掲げられている以下の取組について重点的に取り組む。

・ 100 万人の「MY 行動宣言」

宣言シート、スマホ等を活用して様々な団体及び既存のイベント等との連携等を推進し、2020 年までに 100 万人の宣言を目指す。

・ 「生物多様性の本箱」 300 館プロジェクト

推薦図書「生物多様性の本箱」の常設・企画展示を行った図書館・施設等の数を 2020 年までに 300 館達成することを目指して、さらなる普及啓発に取り組む。

・ 「にじゅうまるプロジェクト」 2020 宣言

にじゅうまるプロジェクト実施主体の国際自然保護連合日本委員会と連携して、2020 宣言を目指す。

・ グリーンウェイブ 2020 の取組

関係機関と緊密に連携してオフィシャル・パートナーの任命等を実施し、オフィシャル・パートナーとも連携し参加団体の増加とパブリシティの促進を図る。

○ UNDB-J クロージングイベントの開催

国連生物多様性の 10 年を振り返り、成果と課題を 2021 年以降につないでいくため、

2021 年 1 月頃に UNDB-J のクロージングイベントを開催する。

せいかりレーに参加登録された生物多様性関連のイベント活動を取りまとめ、国内の取り組みの広がりと成果を発表する。

○ UNDB-J の成果のとりまとめと 2021 年以降（ポスト 2020 生物多様性国際枠組期間）に向けた検討

国連生物多様性の 10 年（UNDB）の最終年である 2020 年に 10 年間の取組及び成果の取りまとめを行い、2021 年以降の取組方針について、UNDB-J の様々な会合等の場を活用しながら、検討を進める。

<個別事業>

★	新規事業・取組
☆	Iki・Tomo 推進事業
【 】	〃 推進事務局

1. 生物多様性に関する行動の呼びかけ

☆（１）MY 行動宣言 5 つのアクション・100 万人の MY 行動宣言

国民一人ひとりが生物多様性との関わりを自分の生活の中でとらえることができるよう、5 つのアクションの中から自らの行動を選択して宣言する「MY 行動宣言シート」について、主流化の取組みの初動となるツールとして活用を広く呼びかける。

- ・ 多様な関係者の協力により作成された各 ver. の宣言シートの配布。
- ・ SNS 等ソーシャルメディアを活用した MY 行動宣言。
- ・ YouTube 等マスメディアを活用した呼びかけの実施。
- ・ UNDB-J が運営に関わるイベントにおいて、5 アクションを踏まえたスタンプラリー等、効果的な収集方法を検討・実施。
- ・ MY 行動宣言と連携可能な団体と、イベント等にて積極的な PR を展開。
- ・ UNDB-J や環境省の後援名義の申請団体や、イベントで顔を合わせた団体等に、MY 行動宣言の収集を依頼。

☆（２）生物多様性アクションフォーラムの開催【CEPA ジャパン】

国民一人ひとりが 5 つのアクションを理解し実践するため、全国各地から事例を収集してウェブサイトに掲載することと、各地の活動を応援することを目的に、企業等に寄付協賛を呼びかけ、MY 行動宣言の 5 つのアクションに即した活動を募集し表彰する「生物多様性アクション大賞」を総括するフォーラムを開催

2. セクター間の情報交換・連携促進

（１）生物多様性全国ミーティング

- ・ 重点事業に記載したとおり、2021 年 1 月頃に、UNDB-J のクロージングイベントを開催する。

3. 主流化に向けた活動プログラム

☆（１）「生物多様性の本箱」の普及啓発

＜「生物多様性の本箱」300 館プロジェクト＞

- ・ UNDB-J が推薦する子供向け図書「生物多様性の本箱」については、常設・企画展示を行った図書館・施設等の数を 2020 年までに 300 館達成することを目指して、さらなる普及啓発を図るための広報、様々なイベントへの出展等を実施。

＜本箱寄贈プロジェクト＞【日本自然保護協会等】

「生物多様性の本箱」を普及啓発施設、小・中学校、図書館等に寄贈し、持続可能な社会の未来を担う子どもたちへ、生物多様性の理解、普及啓発を推進するため、企業等に寄付協賛を呼びかける。

☆（２）連携事業の認定【国際自然保護連合日本委員会】

- ・ 認定連携事業の成果を取りまとめ、2021 年度以降の検討に活かす。（新たな認定は行わない）

☆（３）グリーンウェイブ【国土緑化推進機構】

植樹等をきっかけとした生物多様性の広報、教育、普及啓発を推進するため、3 月 1 日から 6 月 15 日までの期間に、国内の各地域で植樹等を行う国連生物多様性の 10 年「グリーンウェイブ 2020」への参加と協力を広く呼びかける。

- ・ 地方自治体や企業・団体等が主体となった「グリーンウェイブ」の呼びかけを強化するため、①登録促進、②広報、③寄付・協賛等を通して「グリーンウェイブ」の取組の活性化に寄与する地方自治体や企業・団体等を、「グリーンウェイブ」オフィシャル・パートナーに任命。

（４）生物多様性イベント支援ツール

生物多様性自治体ネットワーク構成自治体において生物多様性関連主催イベントを積極的に開催するよう呼びかけるとともに、同自治体向けに「地球いきもの応援団」の紹介や生物多様性キャラクター応援団「タヨちゃんサトくん」の着ぐるみ、「生物多様性の本箱」等の貸出、各種広報ツールの配布を実施。

4. 情報発信

（１）生物多様性マガジン「Iki-Tomo」

一般国民を対象とした普及啓発用小冊子として、自然の恵みを感じる生物多様性マガジン「Iki・Tomo」を発行。

☆（２）生物多様性.com【日本自然保護協会】

日常の中で生物多様性の恵みを感じる機会を提供するためのウェブサイトの運営。連携事業の認定団体やグリーンウェイブ活動団体について取組や紹介文を掲載。

（３）facebook「Iki-Tomo パートナース」

- ・ Iki-Tomo パートナースへの新たな参画を関係者へ呼びかけ。
- ・ 認定連携事業や子供向け推薦図書をはじめとする UNDB-J の様々な取組のほか、UNDB-J 構成団体の取組を広く発信。

- ・ 環境省の報道発表と連動し、イベント開催情報等を発信。

(4) UNDB-J ウェブサイト

全国ミーティング、地域フォーラム等のイベント開催情報や、MY 行動宣言や生物多様性の本箱、認定連携事業の実績等、UNDB-J の活動状況等を発信。

(5) イベント

グリーンチャレンジデー等へ UNDB-J の取組を発信する展示を出展。

★(7) COP15 におけるサイドイベント

中国の昆明で開催予定の COP15（開催時期未定）において、生物多様性条約事務局とともに、サイドイベントとして「UNDB-DAY」を開催し、UNDB-J をはじめとする日本の取組（生物多様性アクション大賞の総括、せいかりレーの実施状況含む）を国際社会に発信。

5. 主流化推進チームによる広報・主流化

(1) 地球いきもの応援団、生物多様性リーダー

地球いきもの応援団のイベント等での出演を通じた普及啓発。

(2) 生物多様性キャラクター応援団

- ・ キャラクター応援団を通じた普及啓発

6. 委員会等の運営

- ・ 委員会（2回程度）、幹事会（1回程度）、運営部会（2回程度）を開催。
- ・ 寄付金の活用については UNDB-J 支援事業財務委員会（6月、2月）と連携。
- ・ UNDB-J や構成団体の取組をまとめたロードマップに基づいた取組を推進。
- ・ UNDB-J の成果のとりまとめと今後の方針等に関する検討を随時実施。

【参考】

(1) UNDB-J 推進事業（愛称：Iki・Tomo 推進事業）について

- ・ UNDB-J 活動を拡大するため、UNDB-J 構成団体による事業との連携が効果的な事業や、UNDB-J 構成団体からの提案事業等については、環境省（UNDB-J 全体の事務局）と調整のうえ、UNDB-J 推進事業（愛称：Iki・Tomo 推進事業）に位置づけ、当該団体内に事務局（愛称：Iki・Tomo 推進事務局）を設置。
- ・ 事業の実施にあたっては、UNDB-J 全体の事務局である環境省と連携しつつ実施。

(2) 寄付協賛募集事業について

- ・ 事業規模の拡大等を図るため、事業の目的や趣旨に応じて、企業等に寄付協賛を呼びかけつつ事業を実施。
- ・ 例えば、「生物多様性の本箱」の各作品を寄贈するプロジェクトについては、各出版社への協賛（本の提供）の呼びかけや、企業等への寄付（寄贈式の実施費用の負担等）の呼びかけについても実施。